

# 共通教育「地球の進化」を担当して

教育地域科学部 地域政策講座 服部 勇

この講義は毎年前期の科目として火曜日1限目に設定されている。講義では、宇宙の誕生から地球の誕生を経て、現在に至る130億年の歴史を語っている。130億年の歴史のどの一幕をとっても、物理的にも、化学的にも、地球科学的にもとても難しく、おそらく精確さに重点を置くと、ほとんどの学生は理解できないであろう。かといって、市販の読み物のような話にしてしまうと、大学教育としていかがかとも思われる。さらにこの分野は日進月歩の所があり、講義で準備した内容を急遽差し替えずなくてはならないこともある。

この講義では、130億年の歴史の結果として現在の地球や人類が存在していることを定性的にも理解できるように心がけている。可能な限り、身近な現象などを例に取り、それと宇宙や地球規模の現象を理解させる材料とるようにしている。本来は、宇宙規模の話と身近な現象とを比較することは正しいこととは思われないが、数式や物理法則などを避けて理解を求めるにはやむを得ない。またこの方法の方が、精確さより全体的理解を深め、共通教育としては適していると思う。そのためか、この講義は、比較的評判がよいと聴いている。出席率は概ねよく、常時7割前後である。講義は一方的にしゃべるのではなく、出席代わりに発問し、学生を指名し、解答させるようにしている。また、ビラやパワーポイントなどは使用しない。板書をし、それをノートに写させるようにしている。理解し、記憶に残すには、自分の手でノートに書くという作業が効果的である。おそらくビラやパワーポイントから得た情報は、講義が終了すると共に消えていっているであろう。

この講義は1限目である。遅刻してくる学生が何人かいる。また、出席はカード読み取り機に学生証を通過させることで確認しているが、読み取り機に学生証を通過させた直後に退室する学生もいる。工学部の学生が多い。2限目に重要な講義があるらしく、着座しているが、いわゆる内職をしている学生も多い。寝ている学生もいる。7割前後の学生からこれらの学生を差し引くと、5割程度が講義に集中しているようだ。

成績は、出席率とテストの結果を合計して付けている。学生証読み取り機による出席確認には、遅刻時間も算出されるので、遅刻時間を足し、90分を超えると1回の欠席としている。この方法で、よほどテストの点が悪くない限り、通常は悪くても可を与えている。不可の学生の大半は出席不足やテスト放棄である。

